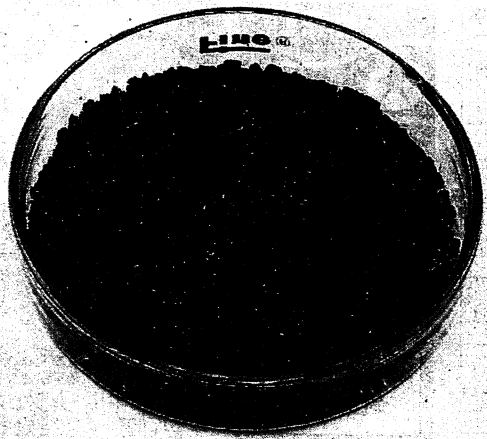


県産ヨウ素に付加価値を



医療用の造影剤などに使われるヨウ素の研究へ、千葉大は来春、「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター(CIRIC)」を、西千葉キャンパス(千葉市稲毛区)に設立する。本県が全世界のヨウ素生産量(2013年)の21%を占める強みを生かし、ヨウ素を付加価値の高い製品に加工して輸出する枠組みを、産学官が連携して構築する考えだ。

来春、千葉大が研究拠点

ヨウ素は、造影剤や太陽電池など医療・工業をはじめ多様な分野で活用される天然資源。日本は生産量の28%を占める世界2位の産出国で、本県はそのうち75%を占める国内トップの産出県だ。

ただ、ヨウ素を造影剤などに加工するのは主に海外企業で、日本は原料を輸出するのにとまっていた。そのため輸出時の原料価格は1トン当たり約300万円だが、輸入時の製品価格は同約2億円に跳ね上がるの

輸出向けで産学官連携

が現状だった。

そこで同大学院理学研究科の荒井孝義教授が中心となり、付加価値の高いヨウ素製品を日本で開発・製造して輸出しようと、CIRICの設立を決めた。研究には、関東天然瓦斯開発(茂原市)や伊勢化学工業(東京)など県内に製造拠点を持つヨウ素関連企業が参加し、県や国も支援する。

来春4月をめどに、中国やインドで需要が伸びる造影剤や、次世代太陽電池に用いるヨウ化鉛など、高性能な製品の研究・開発に着手するほか、ヨウ素のより効率的な抽出方法も検討する。

本県産のヨウ素は、全世界の生産量の21%を占める

懇談会であいさつする花田会長。27日、千葉市中央区



東京五輪機に 県内活性化を

経営者協、県と懇談 県経営者協会(花田力会長)は27日、千葉市中央区のホテルで県幹部との懇談会を開き、昨年7月に同協会が提出した政策要望書について意見交換した。協会関係者や諸橋省明副知事ら34人が参加した。

冒頭、花田会長は「東京五輪・パラリンピック8競

連合と経団 残業上限、

連合の神津里季生会長と経団連の榊原定征会長が27日、東京都内で会談し、政府の働き方改革実現会議で議論されている月100時間を超え上限とする残業規制案に関する意見を交換した。神津氏は過労死を招くような上限設定を問題視する立場を伝え、榊会長は出なかつた。神津氏は過労死を招くような上限設定を問題視する立場を伝え、榊会長は出なかつた。

技の県内準備が推ヤンスキつポテン揮し、経取り組みいさつし懇談でた主要幹に対し、栄一松尾がら割超道路は有る」など

「女性活躍」フォーラム